

令和 7 年度 大野市休日急患診療所利用状況報告

1 令和 7 年度の受診者数 3, 7 2 1 人

年度	受診者数	土曜日平均	※土曜日 夜間	日曜・祝日 平均	※日曜・祝日 夜間
令和 7 年度	3, 7 2 1 人	1 1 人	3. 9 人	4 3 人	7. 8 人
令和 6 年度	4, 1 1 6 人	1 2 人	2 人	4 8 人	8 人
令和 5 年度	3, 8 7 0 人	1 1 人	4 人	4 6 人	8 人
令和 4 年度	2, 1 7 1 人	6 人	3 人	2 6 人	2 人
令和 3 年度	2, 0 9 1 人	7 人	3 人	2 4 人	5 人

※夜間：1 7 時～2 1 時

(受診者内訳)

	内科	外科	小児科
令和 7 年度	1, 5 8 7 人↓ (4 2. 6 %)	7 9 8 人↑ (2 1. 4 %)	1, 3 3 6 人↓ (3 5. 9 %)
令和 6 年度	2, 0 0 5 人 (4 8. 7 %)	7 7 1 人 (1 8. 7 %)	1, 3 4 0 人 (3 2. 6 %)

(居住地別)

	市内	県内	県外	勝山
令和 7 年度	2, 9 6 0 人↓ (7 9. 5 %)	1 6 2 人↑ (4. 4 %)	1 1 0 人↓ (3. 0 %)	4 8 9 人↓ (1 3. 1 %)
令和 6 年度	3, 2 8 2 人 (7 9. 7 %)	1 5 1 人 (4. 0 %)	1 4 6 人 (3. 0 %)	5 3 7 人 (1 3. 0 %)

2 疾病分類

	内科系	外科系	アレルギー疾患 (アナフィラキシーを含む)	その他 (精神疾患を含む)
令和 7 年度	2, 7 0 8 人 (7 2. 8 %)	8 8 6 人 (2 3. 8 %)	8 5 人 (2. 3 %)	4 2 人 (1. 3 人)
令和 6 年度	3, 3 1 5 人 (8 0. 5 %)	7 2 1 人 (1 7. 5 %)	6 5 人 (1. 6 %)	1 5 人 (0. 4 人)

3 救急搬入・転送・紹介状記入件数

	救急搬入	二次・三次救急転送	紹介状記入	二次・三次 医療機関へ紹介	逆紹介
令和 7 年度	2 3 件	1 5 件 (自車で紹介 6 5 件)	1 8 8 件	1 2 0 件	6 8 件
令和 6 年度	2 9 件	2 4 件	2 0 0 件	1 4 0 件	6 0 件

4 特記事項

(1) 内科

4 月	・胃腸炎や咳を伴う風邪症状の患者が多く見られた。 ・尿路結石の転送や、急性虫垂炎の紹介があった。
5 月	・80代女性がC P Aで救急搬入。救命処置を行ったが自己心拍再開は認められず、慢性心不全の増悪により死亡確認となった。 ・脳梗塞疑いや心疾患、尿管結石などの紹介が多くみられた。
6 月	・気温が30度を超えるようになり、熱中症の症状を訴える患者がみられるようになった。
7 月	・熱中症や脱水の患者は16人で中等症もみられた。3連休中には、20代から90代までの熱中症による救急搬入が4件あり、いずれも補液で全身状態は改善し、帰宅可能となった。
8 月	・熱中症や脱水の患者は15人であった。また、新型コロナウイルス感染症患者が増加した。 ・肺炎や、路上で動けなくなっていた新型コロナウイルス感染症患者(70代男性)の転送、ならびに急性虫垂炎の紹介があった。
9 月	・心疾患の紹介があった。 ・施設や高校でクラスターが発生するなど、新型コロナウイルス感染症の感染が拡大し、1日10人以上の陽性者が確認させる日もあった。下旬には、のどの痛みや咳などの風邪症状を伴う受診者は多くみられたものの、新型コロナウイルス感染症の感染者数は減少した。
10 月	・胆管炎での転送や、80代及び90代の肺炎の紹介があった。 ・今年度初めてインフルエンザA型が確認された。
11 月	・インフルエンザ感染症の感染が拡大し、発熱を伴う風邪症状の患者が急増した。 ・70代から90代の肺炎での転送が1件、自車での紹介転院が3件あった。
12 月	・風邪症状を伴う患者は多かったが、インフルエンザ感染症は減少し、新型コロナウイルス感染症や溶連菌など他の感染症がみられるようになった。 ・今年度初めてインフルエンザB型が確認された。
1 月	・中旬からインフルエンザB型の感染者が増加した。インフルエンザ感染症と新型コロナウイルス感染症の同時感染者もみられた。 ・障害者入所施設で新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し、5名が来所した。
2 月	・インフルエンザB型の感染が拡大し、感染者が多くみられた。 ・心疾患や肺炎での紹介がみられた。
3 月	・インフルエンザA型とB型が混在していたが、下旬にはインフルエンザ感染症の感染者数は減少し、A型はほとんど確認されなくなった。 ・胃腸症状を伴う患者が多くみられた。

(2) 外科

4 月	・野外での骨折や打撲のほか、裂創など縫合を要する外傷患者が多くみられた。80代男性が木に登って枝打ち作業中に転落し、脳震盪、鎖骨骨折及び頭部裂傷が認められた。頭部の縫合及びトキソイドワクチンの接種後、転送となった。
5 月	・マダニなどによる虫刺傷や動物咬傷が増加した。

5月	・90代男性が転倒し、右第5趾の脱臼を伴う基節部開放骨折を認めたため、紹介転院となった。
6月	・小児の骨折が多くみられた。いずれも簡易固定を行い紹介転院となった。
7月	・虫刺傷が増加し、蜂刺傷が最も多く9人だった。 ・骨折や脱臼による受診者は15人で、6月の2倍の人数であった。
8月	・虫刺傷が多くみられ、クラゲによる刺傷も見られた。 ・90代女性が自宅で転倒し、腰椎圧迫骨折及び胸椎破裂骨折で紹介転院となった。
9月	・レジャー等で身体を動かす機会が増えたことから、打撲や捻挫、筋挫傷による受診が多くみられた。関節水腫による関節穿刺や関節注射を行った方も数名みられた。 ・市内の高校の体育祭において外傷者2人の受診があり、簡易固定を行い帰宅となった。
10月	・小中学生のスポーツでの骨折や捻挫、裂傷などの受診が多くみられた。 ・始業前に、地区の奉仕作業における草刈り中の鉢刺傷に関する問い合わせがあった。医師が到着前であったため、意識清明で局所症状のみの3名は受け入れ、アナフィラキシー様症状のある方は2次医療機関の受診を促した。
11月	・切創や挫創など、縫合を要する方が多くみられた。
12月	・小児の肘内障や骨折が多くみられた。 ・60代男性が酩酊状態で倒れていたと家族と来所。左下肢の裂創から骨まで露出していたが歩行は可能であったため、創部の洗浄及び縫合を行い帰宅となった。
1月	・今期最強寒波の到来により、雪による怪我の受診者が増加した。スノースポーツや除雪作業に伴う骨折、脱臼、打撲等の怪我が1日で13人みられ、うち8人は屋根雪下ろし中の転落によるものであった。整形外科医が出務していたため固定や整復を行い、紹介転院は無く全員帰宅となった。
2月	・除雪やスノースポーツに伴う骨折、脱臼、打撲などの外傷がみられた。県外の50代男性がスノーボードでジャンプ台から転落し、左肩の脱臼が認められたため、沈静をかけて整復を行った。
3月	・車の接触事故による捻挫や打撲などの外傷での受診が3件あった。 ・気温の上昇に伴い野外での活動が増加したため、創傷や打撲・骨折等の受診が増加した。70代男性が農作業中に管理機に左足を挟まれ、裂傷の縫合及びトキソイドワクチンの接種を行い帰宅となった。

(3) 小児科

4月	・胃腸炎や咳を伴う上気道炎の患者が多くみられた。 ・3歳女児のパチンコ玉の誤飲があった。
5月	・4月に引き続き、胃腸炎や咳を伴う上気道炎の患者が多くみられた。 ・10ヶ月男児がRSウイルス細気管支炎と肺炎で紹介転院となった。
6月	・熱中症の症状を訴える患者がみられるようになった。 ・百日咳と診断されている7歳男児が咳の増悪で来所した。
7月	・ウイルス性疾患が増加。ヘルパンギーナや突発性発疹、伝染性紅斑が多く見られた。 ・13歳男児がアナフィラキシー症状で来所。救命処置を行い紹介転院となった。抗原はハワイ土産のホットケーキミックスの中にいたダニの経口摂取であった。
8月	・ヘルパンギーナや突発性発疹、伝染性紅斑などのウイルス性疾患が多く見られた。

8 月	・勝山市のこども園で新型コロナウイルス感染症の流行がみられた。 ・旅行中の8歳男児がアナフィラキシー症状で来所。救命処置を行い紹介転院となった。
9 月	・市内の小中学校で新型コロナウイルス感染症の流行がみられたようだが、診療所への受診は少なかった。 ・喘息やクループ性気管支炎がみられるようになった。
10 月	・夏かぜと言われるヘルパンギーナや突発性発疹、伝染性紅斑が減少し、喘息や気管支炎が増加した。 ・14歳男児が熱発、腹痛及び血便を伴う下痢がみられたため紹介転院となった。
11 月	・インフルエンザ感染症の感染が拡大し患者数が急増。週を追うごとに感染者が増加した。 ・水痘患者がみられるようになった。 ・4歳女児が気管支喘息重積発作で紹介転院となった。
12 月	・幼児から小学生までの水痘が11人・溶連菌感染症が5人みられた。 ・マイコプラズマ肺炎の3歳女児が、解熱せず咳が増悪したため紹介転院となった。
1 月	・上旬は小児から中学生の水痘が多くみられた。 ・クループ症候群や胃腸炎による脱水での紹介があった。
2 月	・インフルエンザB型や胃腸炎の感染者が多くみられた。補液を要する患者もみられたが、状態が改善し全員帰宅となった。
3 月	・インフルエンザA型とB型が混在していたが、下旬にはA型の感染者はみられなくなり、患者数も急減した。 ・3歳女児がアナフィラキシー症状で来所。救命処置を行い紹介転院となった。

4 その他

- ・土曜日の小児科受診についての問い合わせは、来所 45件、電話 134件
- ・名水マラソン関連の受診者は0人だった。
- ・ゴールデンウィーク期間の受診者は233人だった。
- ・年末年始の受診者は269人だった。

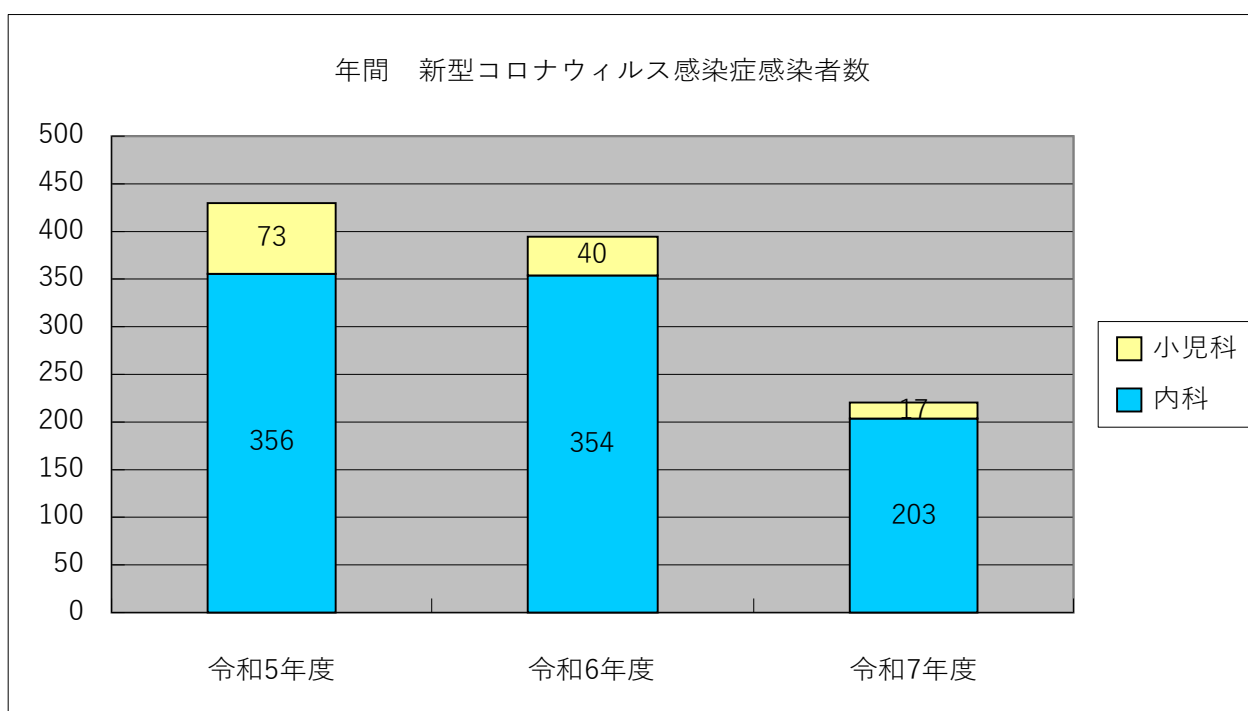
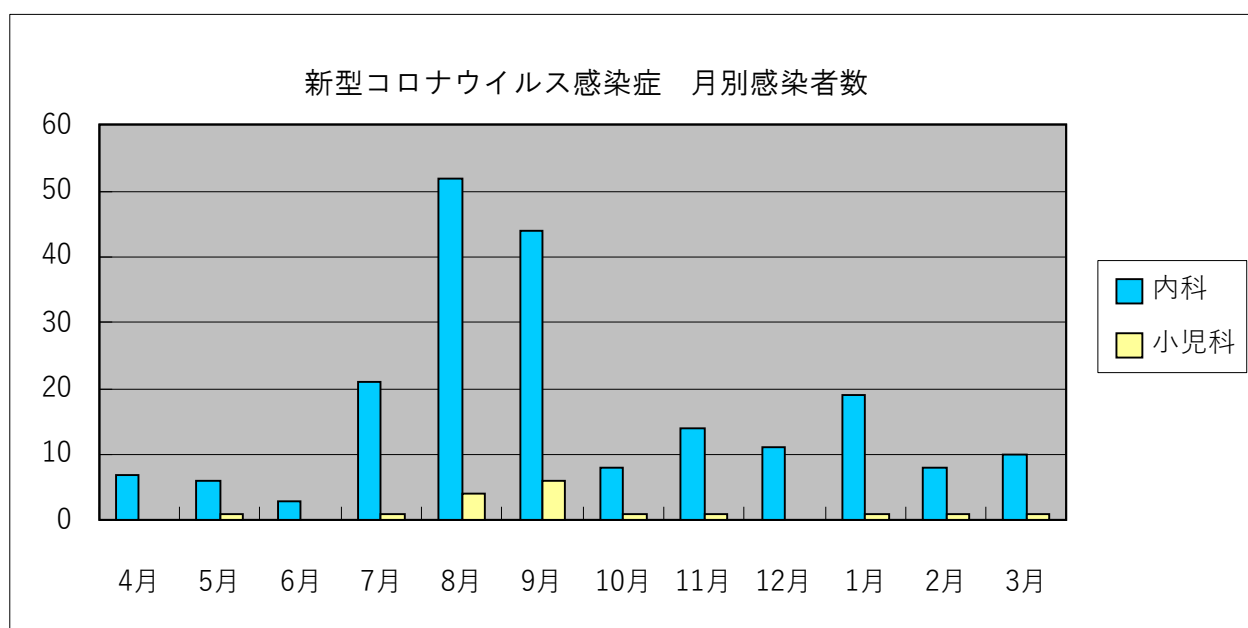
5 感染症報告

(1) 新型コロナウイルス感染症

	R 5 年度		R 6 年度		R 7 年度	
	検査	陽性者	検査	陽性者	検査	陽性者
内科	9 9 7 人	3 5 6 人	1, 3 6 0 人	3 5 4 人	9 9 7 人	2 0 3 人
小児科	5 7 3 人	7 3 人	3 6 1 人	4 0 人	5 3 3 人	1 7 人
合計	1 5 7 0 人	4 2 9 人	1, 7 2 1 人	3 9 4 人	1, 5 3 0 人	2 2 0 人

・令和6年度より新型コロナウイルス感染症の検査数・感染症数共に減少した。流行は6年度と同じく夏であった。

・年間を通して流行時以外でも毎月10人前後の感染者がみられた。感染経路は不明なことが多く、ほとんど内科の患者であった。

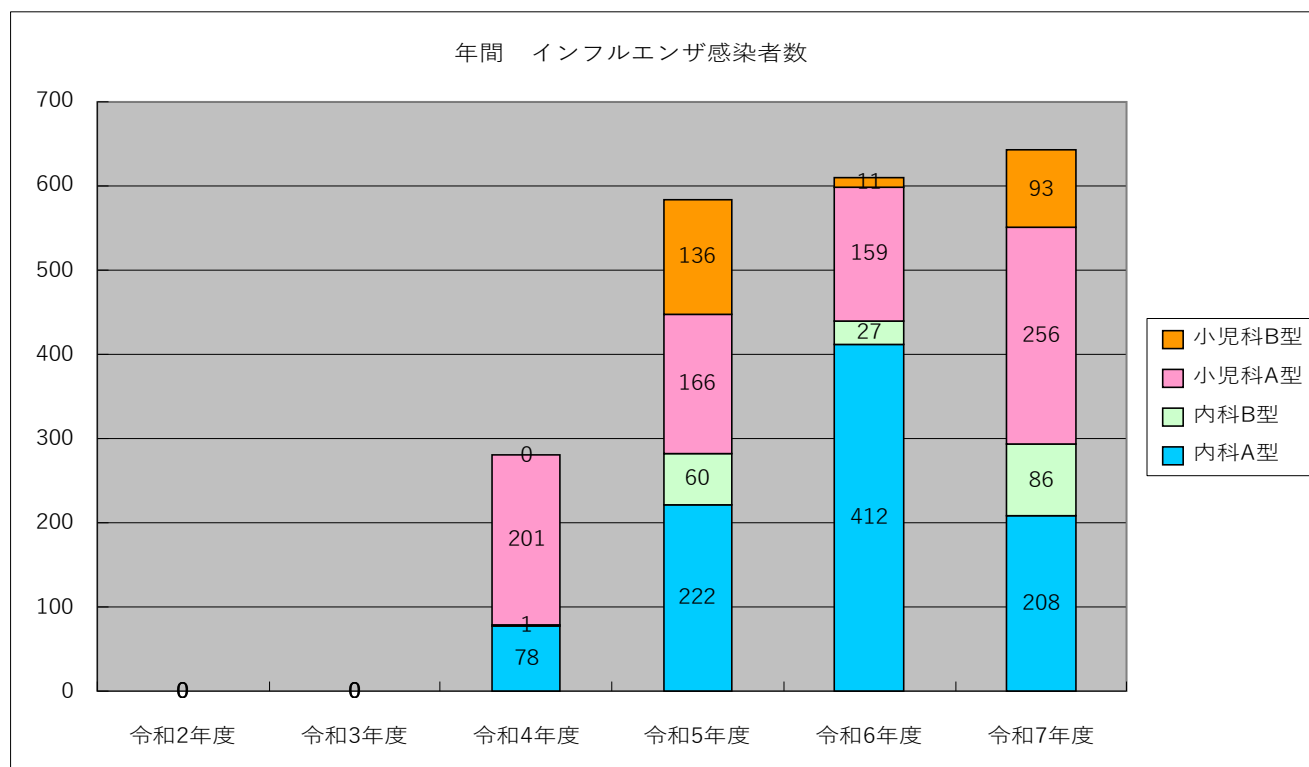
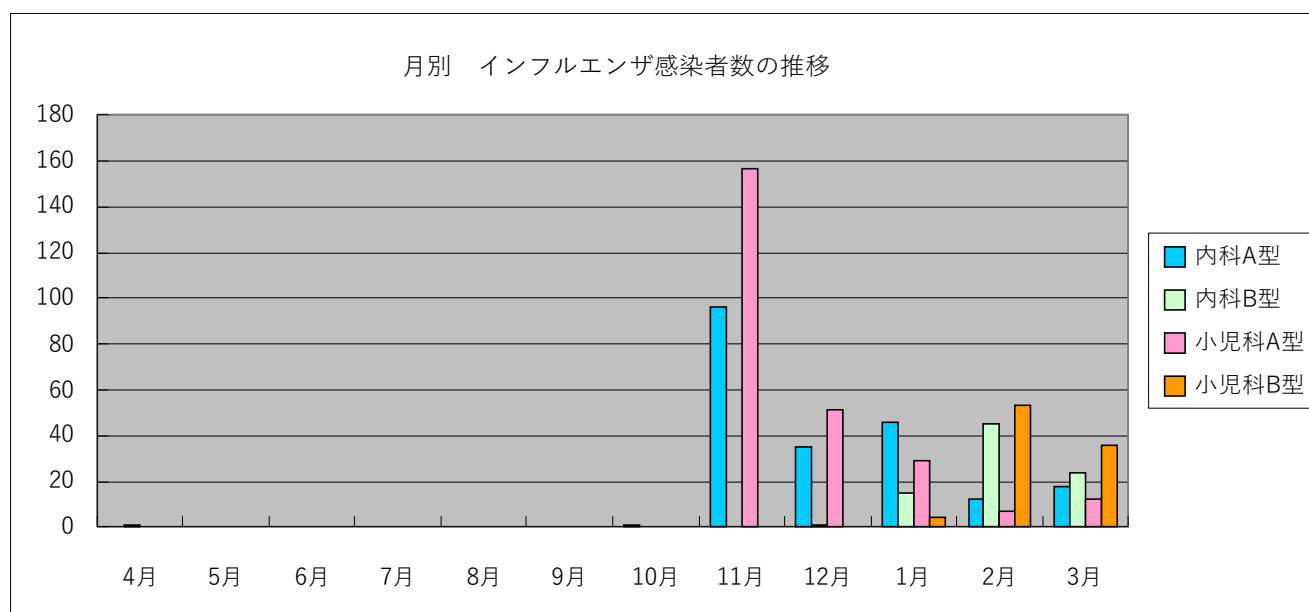


(2) インフルエンザ感染症

	R 6 年度			R 7 年度		
	検査数	A型	B型	検査数	A型	B型
内科	1, 232人	412人	27人	996人	208人	86人
小児科	356人	159人	11人	578人	256人	93人
合計	1, 588人	571人	38人	1, 574人	464人	179人

・インフルエンザA型の流行が例年より早く11月で、流行が年末年始の診療と重ならなかったためA型の感染者は6年度の半数程度であったが、インフルエンザB型の流行が長く続いたため、B型の感染者は6年度の約5倍となった。そのため、インフルエンザの感染者の総数は6年度より増加した。

・2月、3月は内科小児科共にインフルエンザA型とB型が混在していた。



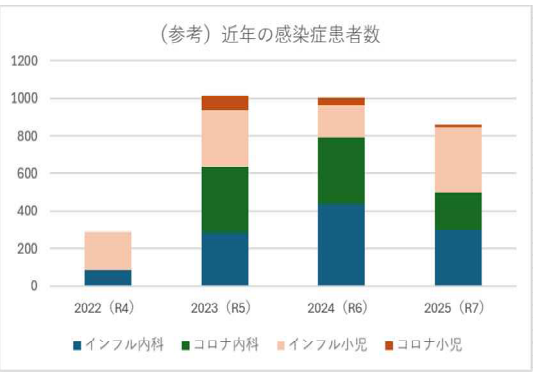
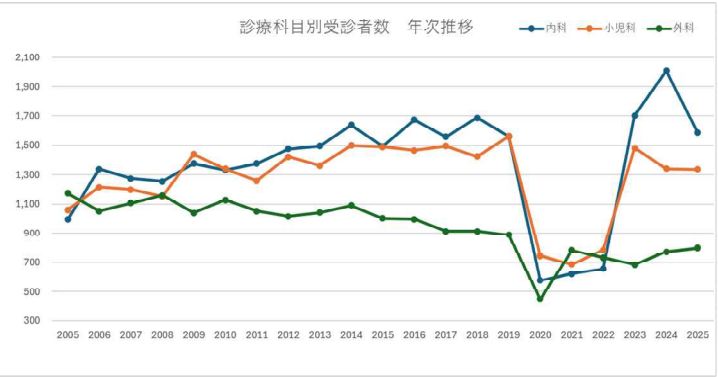
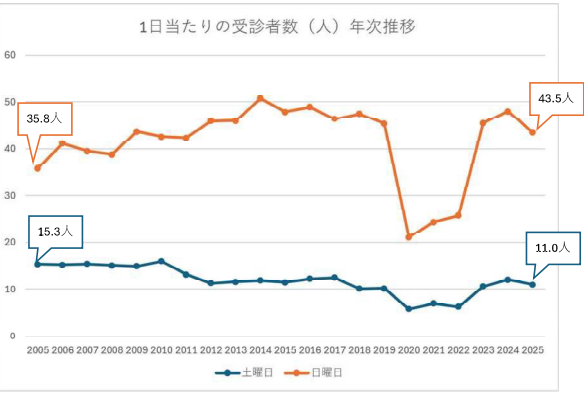
■大野市休日急患診療所 受診者数年次推移

	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
土曜日(日数)	52	50	50	49	50	51	51	49	50	48	50	50	50	50	50	50	51	50	51	50	49
受診者数	796	764	770	743	748	818	674	557	584	572	578	615	626	505	514	291	361	317	544	606	539
1日当たり受診者数	15.3	15.2	15.4	15.1	14.9	16	13.2	11.3	11.6	11.9	11.5	12.3	12.5	10.1	10.2	5.8	7	6.3	10.6	12.1	11
日曜日(日数)	68	69	71	73	71	70	71	73	72	71	72	72	72	74	77	70	71	72	73	73	73
受診者数	2,435	2,842	2,811	2,835	3,109	2,984	3,016	3,357	3,316	3,654	3,405	3,521	3,342	3,521	3,498	1,479	1,730	1,854	3,326	3,510	3,182
1日当たり受診者数	35.8	41.1	39.5	38.8	43.7	42.6	42.4	45.9	46	50.7	47.9	48.9	46.4	47.5	45.4	21.1	24.3	25.7	45.5	48	43.5
受診総数	3,231	3,606	3,581	3,578	3,857	3,802	3,690	3,914	3,900	4,226	3,983	4,136	3,968	4,026	4,012	1,770	2,091	2,171	3,870	4,116	3,721

■大野市休日急患診療所 診療科目別受診者数

	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
内科	996	1,338	1,275	1,256	1,376	1,332	1,377	1,475	1,495	1,637	1,492	1,673	1,559	1,688	1,561	576	622	655	1,703	2,005	1,587
小児科	1,061	1,215	1,199	1,152	1,440	1,341	1,259	1,421	1,362	1,498	1,488	1,466	1,494	1,423	1,562	745	687	783	1,482	1,340	1,336
外科	1,174	1,053	1,107	1,161	1,041	1,129	1,054	1,018	1,043	1,091	1,003	997	915	915	889	449	782	733	685	771	798
受診総数	3,231	3,606	3,581	3,569	3,857	3,802	3,690	3,914	3,900	4,226	3,983	4,136	3,968	4,026	4,012	1,770	2,091	2,171	3,870	4,116	3,721

1 H20は総数異なるがどの数字が正しいのか不明



■(参考) 近年の感染症罹患状況

	インフルエンザ		新型コロナ	
	内科	小児科	内科	小児科
2022 (R4)	79	207		
2023 (R5)	282	302	356	73
2024 (R6)	439	170	354	40
2025 (R7)	294	349	203	17

※2022 (R4) 以前の新型コロナの統計データはありません

- <利用状況>
- ・コロナ禍は発熱患者の受け入れができなかったため、受診者数は激減したが、5類感染症に移行後(2023年5月)は感染対策を行いながら診療が再開され、**受診者数はコロナ禍以前の水準まで増えている。**
 - ・曜日別にみると、日曜日の受診者数が増加傾向にあるのに対し、**土曜日の患者数は減少傾向にあり、20年前と比較すると3割減。**
 - ・診療科目別では、内科・小児科が増加傾向にあるのに対し、外科の受診者数は減少傾向。
 - ・感染症の流行状況によって受診者数の変動がみられる。
 - ・**出生数は14年間で4割以上減少したが、小児科受診者数は1日当たり18人前後と概ね横ばいで推移している。**
 - ・居住地別にみると、**約8割が市民の受診。**市外受診者では勝山市からの受診が最も多く、その約7割が小児科受診。

